

チェコの小型犬プラシユスキー・クリサジーク

チェコ共和国原産の小型犬プラシユスキー・クリサジークをチェコと協力してブリードしている PKJ

プラシユスキー・クリサジーク・クラブ・オブ・ジャパンのブログ

要注意人物

2010.07.16 Friday

ずいぶんしばらくの間、クリサジークの間で息子は要注意人物だった。
確か小学校 5 年生くらいまでは成犬たちに格下に見られていたと思う。

犬たちにしてみれば急に奇声を発するし、
ドタドタと走って部屋に入ってくるし、
室内でサッカーボールをリフティングしたり……
行動が読めないところが「要注意」だったんだとおもう。

我が息子の面目のために付け加えておくが、
彼は決して特別暴れん坊というわけではない。
どちらかと言えば落ち着いた穏やかな性格の持ち主だ。

それでも、子供特有の行動は
クリサジークにとって危険を感じるものなのだろう。

数年前までの懐かしい風景がよみがえる。
学校から帰ってくるなり
重いランドセルを「ドタッ」と床に投げ出し
「トイレ～！」と言いながら走ってリビングを通り過ぎる。
そう、学校が遠いからね。
帰ると同時にトイレへ走るのが常だった。

幼犬はうれしそうに「おかえり～！」と走り寄り
しっぽを振ってトイレから戻る息子をドアの前で待っている。
ベッドに横たわったまま首だけ起こして穏やかな表情で
息子の姿を目で追う寛容な犬。

でも、中には「まただ……。」と怪訝な顔で明らかにムツとしている成犬もいた。
特に子育て中の母犬は……。

その頃が一番、子供と犬の共存に気を使った時期だった。



幼犬と子供は仲良し。
宿題の進み具合が気になるよ。これが終われば一緒に遊べるね。

クリサジークの苦手なもの その2

2010.07.02 Friday

クリサジークが来たその日から、早速しつけが始まった。
といっても人間の息子のだ。

3歳になった息子との約束。

- ・室内をやたらに走り回らない。
- ・物を投げない。
- ・犬を抱くときにはまず自分が床に座ってから。
- ・抱いたまま歩かない。
- ・ドアは開けたままにせず、ゆっくり閉める。
- ・テーブルの椅子を引いたままにしない。
- ・部屋を出るときには足元にクリサジークがいないか確かめる。



小さな子にこれらを守らせることは至難の業だ。
でも、ちゃんと伝えれば犬に優しく接する気持ちも芽生えてくるのです。

「こら～っ！ 走らないっていったでしょ～！」
「ドアをバタンって閉めない！」

何年言い続けたらろう。
そうやって事故のないよう気をつけながら生活してきました。

犬の方も慣れたもので
ドタドタと息子が走ればその軌道から避難していました。

クリサジークの子犬と子供の共存は確かに気を遣います。
思わぬ事故では子犬の方がケガをする危険性が高いです。

でも、自分より小さな犬に優しくする気持ちが自然に生まれて、
そうやって家族になっていきました。

一頭とひとりと一緒に成長し、かなり最近まで息子は犬たちから
「要注意人物」扱いされていましたが、
この頃ではようやく信頼を勝ち得たようです。
現在、息子は生意気盛りの14歳、クリサジークは白髪混じりの13歳。
息子ははやおしそうに老犬を膝に抱きます。
私のことは図太い声で「おかあ！」と素っ気無く呼びますが
犬を呼ぶときは優しい声色に変わります。
いい関係が続いています。

だから、ちゃんと覚悟さえあれば小さな子供との生活も大いにありだと思ふのです。

クリサジークの苦手なもの その1

2010.05.04 Tuesday

クリサジークの苦手なものって何だろう。

水泳
寒さ
大きな音
大きな動く物

それからよく言われるのが
人間の子供

で、小さな子供のいるお宅にクリサジークは渡さない
というチェコの繁殖家は多い。

でも、本当にそうだろうか・・・というおはなしをしましょう。



むかし、初めてクリサジークの子犬に会いに行った時
初対面の私に尊敬する繁殖者の S さんはこう言いました。

「お宅には大きなラブラドルと小さなやんちゃ坊やがいるのね。」
そう言いながら彼女は2歳になる我が息子を横目でチラッと見た。

確かに。

でも、うちのラブは穏やかで他の生き物にも子供にも優しい。
息子だってまだ小さいけれど、暴れん坊というわけではない。

しかし S さんは続けてこう言った。

「子犬を渡すのは心配だわ、
だってラブラドルはクリサジークを食べちゃうかもしれないし、
息子さんはおもちゃと勘違いして投げるかもしれないでしょ。」

結局、我が家にその子犬たちが来たのは、
それから半年後だった。

それも S さん本人が我が家まで連れてきてくれた。
というか、どんな環境かチェックしに来たのだった。

そんなわけで、

我が家が迎えたのは生後6ヶ月を過ぎた幼犬だった訳だが、
それでも充分小さくて最初は不安いっぱいだったのを覚えている。

クリサジークを膝に抱くときの見本

2009.09.05 Saturday

ハイ、よく出来ました。

これはうちの娘と生後4ヶ月のブルーノ。

ブルーノの背中にそっと乗せられた左手が肝心です。



我が家の人たちはクリサジークに混ざって暮らしているので、手を添える事の大切さを身にしみている。

クリサジークにとって人の膝の上ほど好きな場所はない。しかし、特に子犬にとってはこの高さがとても危険です。

まだあまり世の中がわかっていない子犬は、床までの高さを確認してから飛び降りるかどうかを決めるとは限らない。

だっこされると嬉しすぎて飛び跳ねて、そのまま落下、ということもある。特にこのブルーノのような無鉄砲坊やはとっても危険！

だから、クリサジークの子犬を抱く時には畳に正座の場合でも必ず手を添えましょう。

こうやって手を添えていれば飛び降りそうになったときにはすかさず捕獲できるでしょ。膝に子犬をポンと載せて両手で新聞を広げて、なんて決してやってはいけません。

ほんとに、ほんとに、脳震盪や骨折の事故は多くて、安全な抱き方はとても有効です。

室内の防寒

2008.02.27 Wednesday

去年、自信作のこたつ部屋をご紹介したが、今回は「ダンボールハウス」。

現在の我が家のリビングにはこんなハウスが計4つもある。中にはペットヒーターを敷き、毛布がたくさん入っています。

日本の伝統的家屋は、たいてい夏快適に過ごせるように作られていて、その分冬はちょっと寒いですね。

夜間、人がいなくなった室内は温度が下がり、ペットヒーターの敷いてあるベッドで寝ていても耳にしもやけができることがあります。

だから、このような温かで小さく囲われた空間がクリサジークにはもってこいなんですね。



これは棚に収まる背の低いダンボールを使っています。
外にきれいな包装紙や布を張ると、素敵なハウスになるんですが。

昨夜、写真とは別のミカン箱ハウスの入り口から、
かわいいお尻がはみ出ているのを主人がを見つけました。
「なんであんな入口に寝ているの？
誰のお尻だろう？」

私がいつもみんなを呼ぶように軽く口笛を吹くと、
ハウスがゴトゴトと動き出し...
出てくる出てくる！

「1、2、3、4...！」
結局7頭が次々と

「なに、なに？」とわたしの足もとに集合したのです。
「ごめん、何でもなかったんだけど...。」
ハウスはたくさんあっても、
くっついて寝るのが大好きなんですよねえ。

冬の耳カバー

2008.02.20 Wednesday

今年の冬は雪が少なくて私的には大助かりなんですが、
それでもやはりクリサジークは寒さに弱い。

我が家は朝いちばんにみんな庭に出て
おトイレ&運動タイムをするが、
こんな雪の日には「ダダダーッ！」と走り出て行ったかと思うと、
また「ダダダーッ！」と室内までUターンしてくる。

寒くて、足が冷たくて、おトイレどころではないようだ。



でも、外出は別。

運動も散歩もそれからお買い物についていくのも好きな子が多く、短時間なら寒い冬でもなるべく外に連れ出してあげたいと思う飼い主さんが多い。

しかし、チャームポイントである大きな立ち耳は冬の寒風をもろに受け、しもやけになる心配があります。

体質的になりやすい子がいるようですが、ひどい場合には耳の端が壊死して欠けてしまいます。

しもやけかな？と思ったらすぐに対策を講じなければなりません。



で、外出時の寒風対策としてある飼い主さんが数年前に考え出したのが、この「耳カバー」

子供用の化繊入りのソックスが良いようです。つま先を切り取り、



足首のリブが顔の方にくるようにかぶせます。
どう、似合うでしょ？



このタユミが走っても、手で搔いても脱げない秘訣！
くつ下なら素敵な柄もたくさんあるし、
ママの愛情たっぷりです。
しもやけが心配な方々、どうぞお試しあれ。

冬のクリサジーク

2008.01.30 Wednesday

クリサジークは短毛でシングルコート。
寒い冬は苦手です。

家の中でも、ホットカーペットの上の毛布と毛布の間にはさまって
ぬくぬくしてるのが定番。



クリサジークの原産国であるチェコ共和国は、
冬は雪が積もります。
クリサジークはどうしてるのでしょうか？

床暖房で暖か～くて広い室内を
走り回っているとか。

我が家は日差しのある時間に
窓という窓を開け放って寒さに慣らしてから
お散歩に出かけています。

毛布にくるまるのが大好きなくせに
多少の寒さは我慢する位、
お散歩も大好きなようです。

もうすぐクリスマス☆

2007.12.22 Saturday

もうすぐクリスマス。
サンタさんはプレゼントの準備で大忙しですね。

ハイ、我が家担当のサンタさんもきっとあたふたと…
いえいえ、知りませんが…。

さて、この季節になると思い出す言葉があります。

「12月に子犬を手放してはいけない。」
ブリーダーたちに向けての忠告の言葉です。

この季節に迎えられたペットたちは
統計的に早い時期に物のごとく処分される可能性が高いのだとか…。

本当かしら？と思うような話ですが、
リボンのかかったステキな箱の中から
キョトンと顔を覗かせる子犬の姿が目には浮かびます。

もちろん、
家族としてずっと幸せに暮らす子達がほとんどだと言う事はわかっています
でも…どうしてもこの時期思い出してしまう言葉です。

表現を変えれば、子犬を迎えようとしているご家族には
「12月に子犬を手に入れてはいけない。」
と、なります。

需要の多い時期に合わせて
子犬がたくさん生まれるわけがないことを考えれば
「子犬 大セール！」や、
この寒い時期の子犬に
「手がかかりませんよ～」の言葉に決して飛びついてはいけないことは
お判りだと思います。

子犬を探すとき大切なのは、
信頼おけるブリーダーと納得するまで充分話をし、
譲ってもらうことです。
それが出来れば本当は時期なんて問題ではありません。

大事な、大事な、だーいじな命です。

全ての命に幸せが待っていますように。
そして、縁あってこの時期巣立ってゆく新しい命に
「すばらしい家族」というステキなプレゼントを！

この週末、プレゼントの調達にお忙しいサンタさん、くれぐれもお願いします！



なかよくな

2007.12.19 Wednesday

日向ぼこのひとコマ。

テリ、そっと近づくだよ、翔はちょっと緊張しているよ。
慌てて急に立ち上がるかもしれないよ。

ラブドールの翔は保健所で処分寸前だったところを
ボランティア団体によって助けられ、我が家の子になりました。

テリはよく先代ラブの背中に乗って昼寝をしていたものです。
だから翔とも仲良くなりたいたいんだけど。

翔はまだクリサジークに心を開ききってはいません。



人間は大好きだし、おとなしくておりこうだけれど、他の犬や小さな子どもがちょっと苦手です。でも、怒ったりせずに苦手なものから離れてゆきます。

推定9歳。

足が弱く、走ると後ろ足はウサギみたいに同時に前へ動きます。

今までどんな生活をしてきたんだろう。

クリサジークは大型犬に出会ったとき、

恐怖心にちょっぴりの勇敢さが加わって、吠えかかってしまうことがあります。

牛にさえ向かってゆくと言われていて、こんな飼い主泣かせの行動は生まれたときから大型犬と生活する経験で緩和されることがあるのです。

我が家でも、テリを筆頭に先代ラブと暮らした子は翔を自然に受け入れています。翔を迎えることは家族の希望でもありましたが、我が家で生まれるクリサジークベビーたちのためでもあるのです。

ありがたいことに、リサジークには何年も誕生を待ってくださる方達があります。その一方で、こんな子が捨てられてゆく世の中。新しい命を送り出す者として、思うことが多いのです。

※※※

このような子たちとは保健所やボランティア団体のサイトで出会うことができます。成犬を家族に迎えるメリットとして、体のサイズがわかる、性格がわかる、トイレなどのしつけが入っている場合が多い、などがあげられます。



水

2007.09.08 Saturday

クリサジークは水があまり好きではないらしい。
好んで泳ぐのを見たことないし、
暑さのぎにプールを作ってあげても、
せいぜい決まった1頭が外から足で水を触ってみるくらい。

池に浮いているボールが欲しくて、
自分まで池に落ちることがあるが、
決して上手くない犬掻きで慌てて出てくるくらいだ。



ボールが欲しくて思わず飛び込んだが…。



ボールそっちのけで、慌てて出てきました。
今までにも何度か、
不本意に泳ぐ羽目になったクリサジークを救出しているが、
びっくりして目がテンになっていた。



そっちに行きたいけど、ムリ…背中に力が入ってるね。

9月

2007.09.04 Tuesday

9月になりましたねえ。

とはいうものの岐阜は今日も夏日です。

せみも大合唱でまだまだこの暑さは続きそうですね。

夏の昼間、

我が家のクリサジークたちはクーラーの室内と

外の囲いを自由に行き来していますが、

どちらかと言うと

「暑いんじゃないの？」

というような外で昼寝していることが多い。



倒れているわけではありません…。

もちろん、外には日陰や大きな水の器が常に用意してあるのだが、

思いっきり日向で寝ていることもあって、たまに心配になる。

我が家は田舎なので、都会の外とは随分違うんだろう。

山裾だから暑い日でも心地よい風なんか吹いているのかもしれないな。



陽があつたっているよ、暑くないの？

彼らは自分なりに快適な場所を探して寝ているようで、

でも夏は毎年不思議に思いながら昼寝風景を眺めている。



クリサジークはどうやら暑さには強いようです。

どんな犬？

2007.05.15 Tuesday

クリサジークってどんな犬？と聞かれたら・・・。
小さくて短毛、ブラック&タンの毛色が主
(イエローもブラウン&タンもいるけどね)。
活発で賢くて、愛情深い。

短毛で身体が小さいから寒さに弱い、よって室内犬。
運動が好きで幼犬のうちには部屋の中は毎日運動会状態・・・。
そして常に人の傍らにいたいと思っている。
飼い主の膝の上は彼らの特等席である。

運動場があれば、ごらんの通り。
走るの早くてカメラマン泣かせである。



十頭十色

2007.04.25 Wednesday

「この子達、みんな名前があるんですか？」

「全部覚えているの？」

よく聞かれる質問である。
もちろんです。

外見も性格も鳴き声も違います。
しばしば見たただけだって、どの子か当てる自信があります。

みんなうちの子ですから。
やらかしてくれたいはずらの跡を見て
「これは〇〇の仕業だな。」なんてのもすぐわかる。
同じ犬種でも性格はさまざまだ。

本当に個性もいろいろ、
「この子には出来るけど、あの子には無理。」

好きなこと、嫌いなもの、怖いもの。
頑固だったり、単純だったり。

私はいつの間にか相手の性格によって接し方を変えるようになった。



犬の性格も十頭十色。
あなたはどんな個性の犬と暮らしたいですか？

巣立ち

2007.04.11 Wednesday

車の中で、飼い主さんに抱かれ不安げにこちらを見るウエンディーに
「元気でね、いい子にするのよ」と笑顔で声をかけ首を撫でた。

離れてゆく車に手を振っていたら急に泣きそうになり、
下を向いた。
目に入ってきたのは足元で咲くピンクのアネモネ。

そうだ、一輪リビングに飾ろう。

彼女がいなくなった部屋には

何か明るいものと一緒になければ戻れないと思った。

生後3ヶ月と10日、心身ともに理想的に成長した。

自信を持って新しい飼い主さんにお渡しする事も出来たし。

またいずれ、今度はよその子の顔になって
遊びに来てくれるのもわかっている。

晴れの日なんだから、
何も悲しがる事は無いのだけれど、
何度経験してもこればかりはどうしようもない。

「現実逃避だな・・・」

などと思いながら、
今日は美しいピンクの花びらを見つめて過ごすのである。

親子

2007.04.04 Wednesday

日光浴が好きなクリサジークたち。

ぽかぽか暖かな日はお昼寝姿がたくさん見られます。
ポルダママの首に手をかけて甘えているのは、息子のロスタ。



親子といってもロスタは立派な大人だし、
ママよりからだも大きい。

我が家の次期ボス候補でもある。
でも、彼って甘えん坊なのよねえ。

お昼寝しているママを見つけて近づいていったものの

「寝てるから…遊んでもらえないなあ。」
で、仕方なく自分もそばに座って、控えめに甘えています。

「クスツ」と笑ってしまうくらい、ロスタの気持ちが伝わってきます。

「…ママ、大好き。」
同じ家で暮らしていれば親子はちゃんと覚えているし、
いつまでも愛情は続くのである。

コタツ部屋

2007.03.28 Wednesday

我が家のリビングには常に何頭ものクリサジークが生活している。
人の数の何倍もいるなあ。

で、寒さに弱いクリサジークのために
秋から春にかけては夜中も温度が下がらない工夫をしているが、
われながらいいものが出来たと自画自賛しているのが、
この「コタツ部屋」。

おっきなペットヒーターに手作りの箱をかぶせた。
最近は暖かくなってきたのでこのままのことも多いが、
冬はこれにハーフケットをすっぽりかける。
中には敷物をたくさん入れる。

出入り口だけ開けてあるので、
ハーフケットがカーテンのように垂れ下がり中は暖か、
まるでこたつの中のようなのである。
この中でクリサジークたちは寄り添って眠る。

そして屋根の上は下から暖さが伝わってくるし、
高いところが好きなクリサジークには格好のくつろぎの場にもなる。
遊びの場としても最適のようだ。



暖かな日はコタツ部屋の屋根で親子で日向ぼっこです。

さすが、クリサジーク

2007.03.14 Wednesday

プラハのねずみ捕りという名の通り、
クリサジークの中には小動物の気配にとっても敏感な子がいます。

我が家でもチェコの田舎に住んでいたときには
野ねずみを銜えてきた子がいました。

どうやらそれは、同じ敷地に住む大家さんちの猫ちゃんとの
共同作業だったようですが…。

残念ながら今の家にはねずみはいませんから、
代わりに池に住むカエルでハンティングゲームを楽しんでいます。
つい先日は、
すずめを銜えたまま外からリビングに入ってきた子もいました。

その他にもヘビに戦いを挑む子、
遠くの野鳥を狙う子…。

飼い主としては
「やめて～！」なんですけど。

小さくて、人の膝の上が大好きなクリサジークですが、
そんな野性味も魅力の一つです。

ノーリードで自由に遊ぶ姿はまるで大型犬のような風格です。

